

⑫ 公開特許公報(A) 昭61-73607

⑪ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和61年(1986)4月15日

A 45 D 33/34
34/046671-3B
6671-3B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 化粧用パフ

⑮ 特 願 昭59-195794

⑯ 出 願 昭59(1984)9月20日

⑰ 発 明 者 山 下 重 樹 大阪市東成区東小橋2-11-10 資生堂刷子工業株式会社
内

⑱ 発 明 者 丸 川 茂 男 大阪市東成区東小橋2-11-10 資生堂刷子工業株式会社
内

⑲ 発 明 者 福 塚 則 文 大阪市東成区東小橋2-11-10 資生堂刷子工業株式会社
内

⑳ 発 明 者 大 原 治 流山市美田653-82

㉑ 出 願 人 株 式 会 社 資 生 堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号

㉒ 出 願 人 光 洋 産 業 株 式 会 社 東京都千代田区鍛冶町2-5

㉓ 代 理 人 弁 理 士 清 水 修

最終頁に続く

明 細 書

1. 発明の名称

化粧用パフ

2. 特許請求の範囲

軟質発泡体に水溶性イソシアネート化合物を含浸処理することにより形成したことを特徴とする化粧用パフ。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は化粧用パフに係るもので、固型ファウンディションを人体の皮膚に塗布する場合に用い、水を湿潤させて使用する時に、使用者に十分な清涼感を与えることができるとともに乾燥時にも固化することなく、感触の優れた化粧用パフを得ることを目的としたものである。

従来の技術

従来より化粧用パフとしては、ポパール系発泡体、NBR系発泡体、ウレタン系発泡体等が知られている。化粧用パフは固型ファウンディション

を皮膚に塗布する道具であり、秋冬春の気温が高くない時は、固型ファウンディションをそのまま化粧用パフに転写し、皮膚に塗布するが、夏の暑い時は化粧用パフを一旦水に濡らしてから、固型ファウンディションを転写し、これを皮膚に塗布した方が肌に清涼感を得られるため、この方法が好まれて用いられている。したがって春夏秋冬オールシーズンに使用できる化粧用パフとしては、水湿潤時も、乾燥時も、ともに固型ファウンディションの付着性が良く、肌触りが柔らかく、水湿潤使用時には清涼感の持続することが必要である。その点でポパール系化粧用パフは、水湿潤時に清涼感のあるパフとして好評であるが、乾燥時には硬くなり、化粧用パフとしての役割を果たすことができないものとなる。またNBR系パフ、ウレタン系パフ等は、柔らかく化粧時の感触も良いため、乾燥時の化粧用パフとして優れているが、これらの材質は水湿潤時の保水性が小さい為、水に湿潤して使用する化粧時に、皮膚への水の塗布が

均一に行なえず、清涼感が良くない欠点を有している。

発明が解決しようとする問題点

充分な清涼感を得るためには、化粧用パフが充分な保水性を有するとともに水に湿潤して、手で絞った後に余分な水分を保持することがなく、固型ファウンデーションを化粧用パフに適度に転写し、また皮膚への固型ファウンデーションの塗布時に一定量の水分を均一に継続して塗布することが条件となるが、本発明に於てはこの条件を満足させ、好ましい清涼感を得ることができるようにしたものである。

問題点を解決するための手段

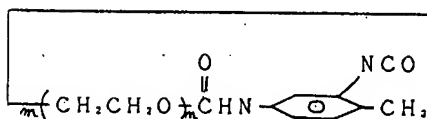
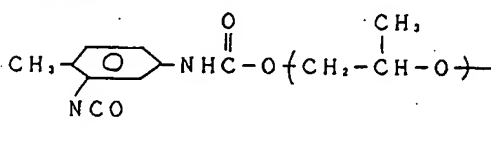
本発明は上述の如き問題点を解決するため、軟質発泡体に水溶性イソシアネート化合物を含浸処理することにより形成したものである。本発明に於いて水溶性イソシアネート化合物とは、多価イソシアネートをエチレングリコール、グリセリン、親水性グリコール類等を少なくとも含む鎖延長剤

レーする方法を用いることができる。

実施例1

密度0.14、厚さ9mmのNBR発泡体を、

下記構造式で表わされる



NCO含量 3.5~3.8wt%

PO・EO比率 20:80

のウレタンプレポリマーと、トリエタノールアミンの100対1(重量比)の液中に浸漬した後、プレスにて圧搾脱液してNBR発泡体中に上記液残量10wt%を含浸させた後、60℃の乾燥器中で24時間加熱して化粧用軟質発泡体を得た。この軟質発泡体は乾燥時に柔かく感触が良いとともに水に湿潤し、手で良く絞り皮膚に押圧摺動して清涼感

により、高分子化された親水性の大きな水溶性イソシアネート化合物、およびこの水溶性イソシアネート化合物を少なくとも含む組成物で、系中にアミン等の反応触媒、グリセリン、エチレングリコール、ポリエチレングリコール等の多価アルコールを助剤として含む組成物を意味している。また本発明の軟質発泡体は、柔かく感触が良いとともに固型ファウンデーションによって劣化しにくい発泡体ならどの様なものでも良く、NBR系等ゴム発泡体、ウレタン系発泡体等のいずれでも良い。

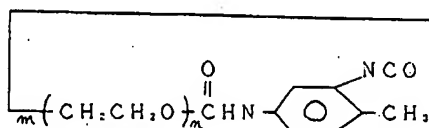
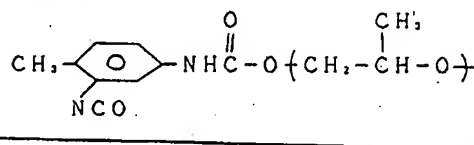
この軟質発泡体にイソシアネート化合物を含浸させるには、軟質発泡体を液状のイソシアネート化合物中に浸漬した後、プレスまたロールで圧搾脱液する方法、または液状のイソシアネート化合物を表面付着したロール間に軟質発泡体を挿入して、イソシアネート化合物を軟質発泡体に転写含浸させる方法を用いることができる。また更には軟質発泡体に液状のイソシアネート化合物をスブ

を比較したところ、従来公知のNBR発泡体に比べ優れた清涼感を得ることができた。

本実施例の化粧用パフが優れた清涼感を示した理由としては、上記イソシアネート化合物によってNBR発泡体の吸水性が大きくなり、パフが皮膚に押圧された圧力により、NBR発泡体の表面層を介して継続して徐々に水が浸出し、皮膚に清涼感を与え続けたものと考えられる。

実施例2

下記構造式で表わされる



NCO含量 3.5~3.8wt%

PO・EO比率 20:80

のウレタンプレポリマーの液中を、くぐったポリ

プロピレン製ブランケットのロールに、密度0.13、厚さ8mmのエステル型ウレタンホームを接触して、上記ウレタンプレポリマー液を転写させた後、湿度90%、温度60℃の乾燥器中で反応乾燥させ、水溶性イソシアネート化合物を含浸処理した化粧用パフを得た。

この化粧用パフと従来公知のNBR発泡体で形成したパフを水に湿润し、手で良く絞り皮膚に押圧撓動して清涼感を比較したところ、本実施例の化粧用パフがNBR発泡体パフよりも優れた清涼感を得ることができた。その理由については実施例1と同様と考えられる。

発明の効果

本発明は上述の如く、軟質発泡体に水溶性イソシアネート化合物を含浸処理することにより形成したものであるから、イソシアネート化合物によってNBR発泡体の吸水性が大きくなり、パフが皮膚に押圧された圧力により、NBR発泡体の表面層を介して継続して徐々に水が浸出し、皮膚に清

涼感を与え続けることができる。従って本発明化粧用パフは十分な保水性を有するとともに水に湿润して、手で絞った後に余分な水分を保持することがなく、固型ファウンディションを化粧用パフに適度に転写し、また皮膚への固型ファウンディションの塗布時に、一定量の水分を均一に継続して塗布することができ、皮膚に好ましい清涼感を与えることができるものである。

第1頁の続き

⑦発明者	服部	辰昭	川崎市麻生区千代ヶ丘3-8-4
⑦発明者	明穂	美智子	東京都世田谷区北沢5-34-19
⑦発明者	井上	大成	船橋市夏見2-12-10